地域ケア推進会議　報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2025年3月26日
作成 高齢者支援センター	医療と介護の連携支援センター
作成者	佐川　幸子

1.開催日時	2025年3月19日	（水）	18:30	～	19:30
2.会場	オンライン				
3.主催センター	連携　・　・				
4.参加人数	48名				
5.参加者内訳	☑ 高齢者支援センター　10 人　☑ 医療と介護の連携支援センター　5 人				
	☑ 医療関係者　13 人　（うち、医師　3 人）　☑ 介護事業者　19 人				
	☐ 民生委員　人　☐ 老人会　人　☐ 住民　人				
	☐ 町内会自治会　人　☐ 警察　人　☑ 行政　1 人				
	☐ その他　（　人　）				
6.開催テーマ	住み慣れた場所で暮らし続けるために ～第4回　近所に作ろうかかりつけ医療機関～				
7.地域課題	（1）課題設定の背景 前回までの地域ケア推進会議において、「専門職が専門的な医療機関を選定するために必要な情報にたどり着くことができないこと」を課題として検討を進めてきた。しかし、過去3回の地域ケア推進会議における専門職からの意見を踏まえて分析・検討を行い、利用者等から相談があった際には専門職が専門的な医療機関を選定するのではなく、医療面からの判断ができるかかりつけ医を通して専門医療の利用につなげることが必要だと分かった。 医療機関を適切に選定するには、普段の医療状況を知るかかりつけ医の判断が起点となり、専門医療の利用につなげることが望ましい。そのため、専門職が利用者の課題に向き合う際には既往歴や普段の状況を把握しているかかりつけの医療機関への相談を第一に考慮すべきである。一方で、かかりつけ医療機関の提供できる医療の範疇を超えた場合はかかりつけ医の判断で適切な専門医療へ繋ぎ、治療終了後は再びかかりつけ医療機関が経過を見ていく紹介機能も重要である。医師、歯科医師の他にも、かかりつけの薬局はかかりつけ医及び専門医の処方を一元的かつ継続的に薬学的管理と指導を行う役割を持ち、日常のかかりつけ医療機関が利用者を包括的に支援することが求められる。 （2）検討した地域課題 かかりつけ医が存在しないことにより専門的な医療機関の選定が困難になるという課題がある。普段の状況を知る医師、歯科医師、薬剤師のかかりつけを近所に作ることを市民が出来ておらず、市民と同様専門職もかかりつけ医療機関の役割を正しく認識できていない。				
8.会議の内容	1：「かかりつけ医という空虚」（町田市医師会理事　増子クリニック　増子達也先生） 「かかりつけ医」に関して、医師として感じている現状や今後地域に必要な取組について 2：地域ケア会議の主旨・経緯・及びグループワークの題材説明 3：グループワーク テーマ「かかりつけ医について」 かかりつけ医のこれまでのイメージと増子先生の話を聞いた後のイメージの違いや 現状について話し合った。 4：グループ発表・まとめ・総括・アンケート 今回の会議で上がった意見から現状を把握し、次の地域ケア会議に向け 課題整理・解決の検討を行う。				
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	現状として、かかりつけ医療機関に対する市民及び専門職の認識度が低いことや、かかりつけ医が必要と判断した際に専門医療機関に繋ぎ、治療終了後はかかりつけ医に返すという基本的な体制についての理解が不十分であることが挙げられた。 これらの課題に対し、 ①市民及び専門職がかかりつけ医についての理解を深めるための普及啓発の取組 ②市民と介護専門職が地域でかかりつけ医療機関を適切に選択するための情報媒体の普及 ③2025年4月から施行される「かかりつけ医機能報告制度」について市民や専門職の理解を深めるための取組 について、検討を行い、必要に応じて町プロ協議会への提案を行う。				
10.その他					

医療と介護の連携支援センター 確認日	月　日